

経営比較分析表（平成28年度決算）

静岡県 地方独立行政法人静岡市立静岡病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	500床以上	
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	56,200	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

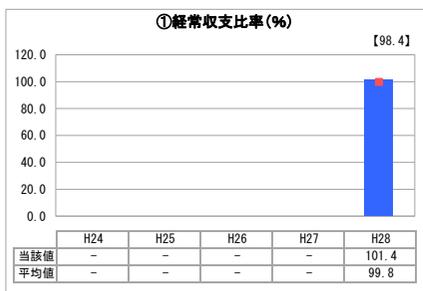
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
500	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	6	506
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
500	-	500

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

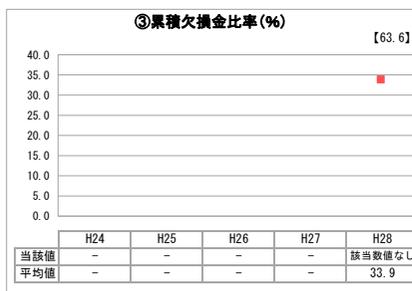
1. 経営の健全性・効率性



「経常損益」



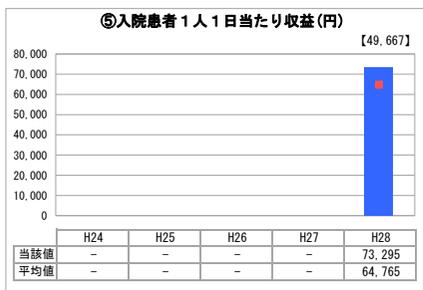
「医業損益」



「累積欠損」



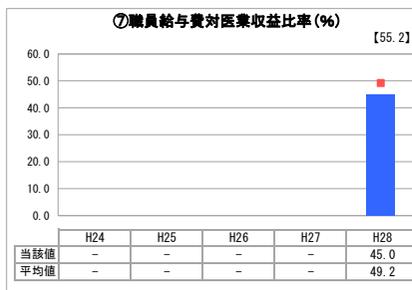
「施設の効率性」



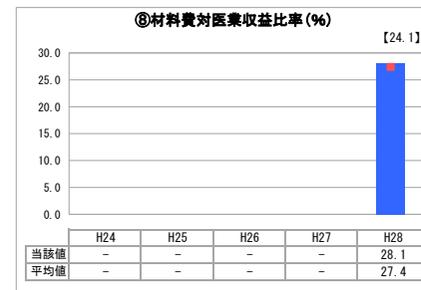
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

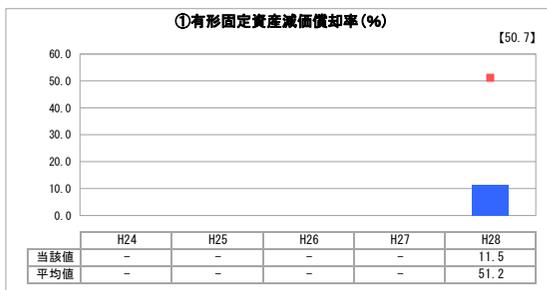


「費用の効率性①」

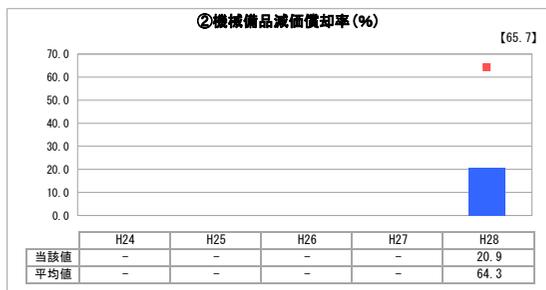


「費用の効率性②」

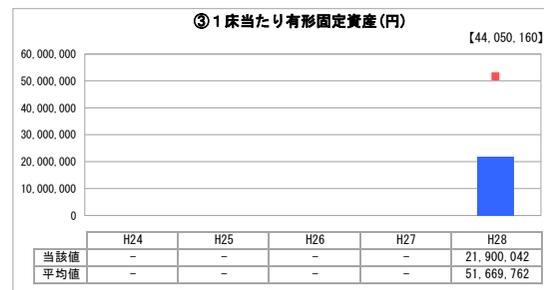
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「施設投資の状況」

I 地域において担っている役割

静岡医療圏の基幹病院として、急性期および高度急性期医療を担っている。特に心臓病治療の実績は高く、先進的ながん治療など、高度で良質な医療の提供に努めている。また、断らない救急医療、質の高い急性期患者、新規患者の受入を進めるとともに、地域の医療機関や介護施設、異なる機能を有する病院・病床等との連携や、紹介・逆紹介などを通じて、地域完結型医療の実現に寄与している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

独法初年度の経常収支は赤字であったため、経常収支比率は101.4%となり累積欠損は発生しなかったが、医業収支比率においては、増員に伴う給与費の増加等の要因により98.1%となった。

病床利用率は地域の医療機関等との連携や救急の積極的受入により89.8%となった。

入院患者1人1日当り収益は、一般病棟入院基本料（7対1）看護配置等、診療報酬の増額となる施設基準の新規届出や算定率の向上を図った結果、前年度より増加したが、外来患者1人1日当り収益は院外処方切替に伴い前年度より減少した。職員給与対医業収益比率は、増員に伴い前年度より上昇した。

材料費対医業収益比率は、院外処方による医薬品購入額の減少や外部コンサルタントによる価格交渉に伴い前年度より減少した。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、平成20年の東館建替え等により施設の更新が進んでいるため、全国平均値及び類似病院平均値を下回った。

機械備品減価償却率は、定期的な医療器械等の更新を行っているため、全国平均値及び類似病院平均値を下回った。

1床当たり有形固定資産については、独法移行時の開始貸借対照表作成に当たり、固定資産を再評価し、耐用年数が経過したもの及び取得価格から減価償却累計額を差し引いて10万円以下となるものは固定資産に計上しなかったため、全国平均値及び類似病院平均値を大きく下回った。

全体総括

平成28年度は入院収益の増加が経常収支の黒字に大きく寄与し、指標上は健全な部分が多いが、増員による給与費増加等により、今後は厳しい経営状況が予想される。

今後も中期計画に基づいた取組みを着実に実行することをはじめ、患者数や診療報酬改定の動向を見据え、収益の確保及び費用の節減を着実に実行し、安定的な経営を維持したい。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。